

一般社団法人日本小児看護学会

2024年度 第1回定時社員総会（評議員会）議事録

【日時】2024年6月9日（日）13:00～15:00

【会場】AP品川アネックス 1ルーム

【出席】

理事：荒木暁子，植木慎悟，加藤令子，来生奈巳子，西田志穂，二宮啓子，野間口千香穂，平田美佳，
平林優子，三宅玉恵，渡邊輝子（五十音順）

監事：飯村直子，古谷佳由理

選挙管理委員長：西田みゆき

評議員出席者：有田直子，石浦光世，市江和子，伊藤久美，上原章江，及川郁子，及川裕子，大須賀美智，
長田暁子，小野智美，金泉志保美，草野淳子，小迫幸恵，込山洋美，近藤美和子，塩飽仁，
杉浦太一，祖父江育子，染谷奈々子，新家一輝，仁尾かおり，濱田米紀，日沼千尋，
福地麻貴子，藤田優一，古橋知子，本田順子，松岡真里（五十音順）

出席社員数：59名（会場40名 委任状19名）

欠席社員数：1名

【開会】

出席者数の確認

司会の平林副理事長より、13時05分に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数60名のうち、会場出席者40名、委任状による出席者19名、欠席者1名であり、定款第27条2項により評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。

理事長挨拶

2023年度の活動として、若手研究者の育成のための大学院生の研究助成、COIマネジメント指針に基づいたCOIマネジメントの運用、会費納入方法としてコンビニ決済の導入などを始めた。また、入院している小児の付き添い問題に対して、日本小児看護学会として議論に参加するようにしたこと、法人としての運営という面では、繰越金が年々増えている。理事会としては、少子社会や人口減少に伴う医療の変化の中でも小児看護の維持できるように今年度は、今後の学会の方針を検討するとともに運営についても検討を始めてまいりたいと考えている。

議事録署名人の承認

定款第29条により、社員総会の議事録署名人として、長田暁子評議員、染谷奈々子評議員が推薦された。出席

した評議員40名に対し承認のための決議を行い、投票者40名中賛成40名、100%の賛成で承認された。

議長選任

定款第26条により、野間口千香穂理事長が議長に任命された。

【報告事項】

理事会の報告に先立ち、野間口理事長より入院している小児の付き添いに関する課題への学会の対応について報告された。本学会では、子どもの入院に家族が付き添うことに対する対応が施設や病棟の状況によって異なるため、慎重に対応すべきこととして対応をし、理事会での議論を行うとともに国の調査への参画、関連団体との連携を行ったことが報告された。活動内容として、1.こども家庭庁・厚労省による「入院中のこどもへの家族等の付添いに関する検討委員会」において、調査の対象の選択や事例集の取りまとめの際に意見を述べるなど積極的にかかわった。2.診療報酬改定要望書に補助者加算、保育士加算について要望の提出を行った。3.子どもの権利などの政策的視点から、子どもの療養環境がどうあるべきかを同時に議論、整理をした。4.日本小児科学会とも連携して、「入院しているこどもの家族の付き添いに関する課題を検討するワーキング

グループ」「入院しているこどもの家族の付き添いに関する見解(案)」に対するコメントを提出した。

1. 理事会報告

野間口理事長より資料に基づき報告された。

1) 第1回理事会報告(2023年5月14日 web 開会)

社員総会の資料と進行について確認された。年会費支払方法について、コンビニ支払いが可能な方向で検討することが報告された。

2) 第2回理事会(2023年7月14日 対面開催)

学会 COI の運用の開始について説明がされた。

3) 第3回理事会(2023年10月14日 対面・web 開催)

小児の付き添い問題に対する検討を行ったことが報告された。また、学術集会の講演集の販売は行わないことが承認された。2024年度看護系学会等社会保険連合研究助成について、応募されたものは診療報酬検討委員会で審議し選出することが承認された。

4) 第4回理事会(2023年12月16日 web 開催)

COI システムについて、学会マイページによる申告で実施することが承認された。選挙広報活動の時期について審議され承認された。WANS の会長選挙、2024年8月14-19日に学会が行われる予定であることが報告された。

5) 第5回理事会(2024年3月10日 web 開催)

2023年度決算、2024年度予算(暫定版)についての報告がされた。2024年度看護系学会等社会保険連合(看保連)研究助成について、2件の応募があり、うち1件について理事長推薦としたことが報告された。第34回学術集会テーマセッション企画案、EAFONS2024でのポスター発表について、2023年度国際交流委員会研修会、第34回学術集会テーマセッション企画、APPNA 会議予定について報告があった。

2. 2023年度定時社員総会報告

2023年6月25日 web 開催

Zoom を使用した web 会議で行われた。出席者 57 名(会場出席は 51 名、委任状 6 名)、欠席社員 3 名であった。

【報告事項】

資料の通り報告された。

【審議事項】

資料の通り報告された。

3. 会員動向(事務局)報告

2023年度正会員入会者数は281名、退会は198名、賛助会員入会2団体、賛助会員退会1団体、名誉会員退会1名で83名(団体含む)増加であった。2023年度末現在、会員数2,322名、正会員2,307名、賛助会員5団体、名誉会員10名であった。地区別の会員数は資料の通りであった。昨年より会員数1桁の県が増えていることが報告された。

4. 2023年度事業報告

1) 学術集会

第33回学術集会は、荒木暁子氏(東邦大学看護学部教授)を会長としてパシフィック横浜で開催された。2023年7月15日、7月16日、オンデマンド配信7月20日から8月20日まで開催された。メインテーマを「子どもたちの未来を見据え、今やるべきこと」とし、一般演題129題、参加者数1,784名であった。

2) 総務(総務委員会)

- ① 理事会、社員総会、会員集会運営を行った。
- ② COI システムの申請手続き・システムの検討を行った。
- ③ 会員納入システムの検討・導入を行った。
- ④ 外部団体との連携を行った。

3) 利益相反管理(利益相反委員会)

- ① 該当者の COI 自己申告書の収集と管理・保管について、2023年度は申告書の提出は書面とした。今後は、会員マイページを利用することが報告された。
- ② COI 自己申告書の利益相反状態の確認において、記載が不足している対象者には追加で記載を求めた。

4) 学会誌発行・編集(編集委員会)

- ① 学術誌第32巻、第33巻の編集・J-STAGE 公開をした。2022年の投稿論文は47編で受理28編、取り下げ17編、掲載不可2編であった。2023年度中の結審は9編であった。2023年の投稿論文は63編で、受理27編、取り下げ21編、掲載不可3編で、査読継続中は12編である。2024年は13編の投稿がありすべて査読継続中である。
- ② 学会誌第32巻の冊子発行を行った。
- ③ J-STAGE 公開論文の電子配信を行った。
- ④ 学会誌掲載論文転載許諾等について3件の申請を承諾した。
- ⑤ 投稿規程ならびに査読ガイドラインの検討を行った。

- ⑥ 日本小児看護学会学術集会講演集の文献検索エンジンへの登録を行った。
- 5) 広報 (広報委員会)
- ① ホームページの更新 26 件を行った。
- ② メールマガジンの配信 22 件を行った。
- ③ ニュースレターNo.61, No.62 の発行を行った。
- 6) 学術・研究推進 (学術・研究推進委員会)
- ① 日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行った。
- ② 日本小児看護学会川出富貴子国際発表助成の募集に 1 件の応募があった。
- ③ 大学院に対する研究助成の広報並びに公募を行い 2 件の応募があった。
- ④ 第 34 回学術集会, 第 35 回学術集会の企画, 準備の補助を行った。
- 7) 小児看護に関する教育 (教育委員会)
- ① e-learning の運営を行った。
- ② 「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」集合研修の実施を行った。
- ③ 現在, e-learning 講義内容の更新作業の検討を行っている。
- ④ 第 33 回学術集会を実施した。
- ⑤ 日本小児神経学会主催「第 21 回医療的ケア研修セミナー」共催をした。
- 8) 小児看護に関する倫理検討
- ① 第 33 回学会学術集会での委員会活動の周知のパネル展示, 委員会でテーマセッションを企画し, 実施した。
- ② 第 1 回倫理委員会企画研修を実施した。
- 9) 小児看護政策に関する検討 (小児看護政策委員会)
- ① 第 33 回学術集会での小児看護政策セミナーの開催を行った。
- ② 第 34 回学術集会委員会パネル発表に向けて準備をしている。
- ③ 令和 6 年診療報酬改定および付き添いに関する調査検討委員会の設置に向けて, こども家庭庁・厚生労働省保険局医療課技官と情報交換した。
- ④ 第 33 回学術集会でテーマセッションを行った。
- ⑤ 第 34 回学術集会テーマセッションの準備をしている。
- ⑥ 医療事故情報収集等事業報告書などを理事・監事へ転送し, 小児関連の事故情報を共有した。
- 10) 小児看護関連診療報酬検討 (診療報酬検討委員会)
- ① 令和 6(2024)年度診療報酬改定要望書を提出し, 関連学会等と合同提案に関する調整をしながら問い合わせ等の対応をした。
- ② 診療報酬にかかわる説明会や委員会に参加し活動した。
- ③ 診療報酬等に関連する活動をした。
- ④ 第 34 回学術集会テーマセッション企画準備を行っている。
- ⑤ 「小児慢性特定疾病患者に対する外来に関連した診療報酬へのニーズ」について研究計画書を作成し, 次年度実施する予定である。
- 11) 国際交流 (国際交流委員会)
- ① 第 33 回学術集会 委員会広報パネル展示を行った。
- ② 2023 年度研修会を開催した。
- ③ Asia Pacific Paediatric Nursing Association (APPNA) 理事会参加, 世界看護科学学会 (WANS) 加盟学会・団体代表者会議参加に参加した。
- 12) 災害対策 (災害対策委員会)
- ① 第 33 回学術集会テーマセッションを実施した。
- ② 日本小児救急医学会と共催で「小児周産期医療従事者向け災害医療研修会」を開催した。
- ③ 災害支援事業助成の運営, 選考を行い、2024 年度は 1 団体に助成金を交付した。
- ④ 令和 6 年能登半島地震に対して, 被災地および支援状況の情報収集や被災評議員との情報共有, 情報提供などを行った。
- 13) 選挙 (選挙管理委員会)
- ① 2024 年度選挙に向けての目標設定と戦略検討を行っている。
- ② MAF 担当者と共に選挙方法の検討を行った。
- ③ 選挙活動の周知のため HP にポスターの提示, メールマガジンの配信を行った。
- 14) その他
なし

質疑応答

編集委員会に対し, 投稿論文のうち, 1/3 程度が取り下げになる理由について質問があった。編集委員会委員長より, 原則 2 回の査読であるが, 取り下げを勧める論文の多くは査読後の論文の修正に時間がかかることが考えられるものであること, 掲載不可ではないので再投稿できることが説明された。

【審議事項】

1. 2023年度決算

1) 収入の部

2023年度会費収入合計は18,412,000円、当期収入合計は47,373,145円であった。前期繰越収支差額を合わせた収入合計は158,217,697円であった。

2) 支出の部

2023年度の支出合計は41,333,783円、収支差額は6,039,362円となった。次期繰越収支差額は116,883,914円であった。

3) 貸借対照表

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。

4) 正味財産増減計画書

経常増減として経常収益、経常費用、および経常外増減として経常外収益、経常外費用の詳細を示している。

5) 財産目録

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。正味財産は115,585,641円となっている。

6) 非営利性が徹底されていることの確認書

営利性が徹底されていることについて、野間口理事長より署名・捺印されたことが報告された。

2. 2023年度監査

飯村監事、古谷監事にて、5月14日に2023年度決算報告について監査を行い、会計帳簿、証拠書類を照合調査の結果、問題がなかったことが報告された。また、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務執行について監査されたこと、方法およびその結果について報告された。

質疑応答

質問なし

2023年度決算および監査結果の承認

2023年度決算および監査に対して、決議権のある評議員100%の賛成が認められ、可決された。

3. 2024年度事業計画案

資料に基づき、理事長、各委員長より報告された。

社員総会：1回 2024年6月9日(日)

会員集会：1回 2024年7月6日(土)

理事会：5回 第1回2024年5月11日(土)、第2回7月5日(金)、第3回10月12日(土)、第4回12月21日(土)、第5回2025年3月16日(日)

1) 学術集会

第34回学術集会は、以下の通り開催する。

会期：2024年7月6日(土)・7日(日)現地開催

2024年7月19日(金)～10月31日(木) (予定)：

オンデマンド配信

開催形式：ハイブリッド開催(現地開催およびオンデマンド配信)

会場：大阪国際会議場

会長：加藤 令子氏(関西医科大学 看護学部・看護学研究所 とも看護学 教授)

テーマ：多様化・複雑化する社会の中で生きる“こどもの力”を育む

2) 総務(総務委員会)

① 理事会5回、社員総会1回、会員集会1回を開催予定である。

② 総務委員会の開催

理事会前に年5回開催予定である。

第1回を2024年5月6日に開催し、第2回を7月3日に開催予定である。第3回以降日程未定である。

③ 学会運営

社員総会および会員集会の準備と実施、予算案と収支決算の作成、各委員会との連絡調整、学術集会会長候補者の推薦、名誉会員候補者の検討、会員・評議員への情報提供、関係機関との交渉・情報提供・後援依頼等への対応を行う。

④ 外部団体との連携活動

JANAとの連携協力、学術団体等の後援、共催を行う。

3) 利益相反管理(利益相反委員会)

① 該当者からのCOI自己申告書の収集、管理・保管

② 収集したCOI自己申告書の利益相反状態の確認

③ COIに関連した疑義の受付と審議

④ COIに関連した情報提供

⑤ COI申告システムの整備

4) 学会誌発行・編集(編集委員会)

① 学会誌第33巻編集および採択論文のJ-STAGE公開

② 学会誌第33巻の冊子発行

③ 学会誌掲載論文転載許諾審議等

④ J-STAGE公開論文の電子配信

⑤ 投稿規程・査読ガイドライン等の検討

⑥ 学術集会におけ開催, 編集経過の周知 (パネル予定)

5) 広報 (広報委員会)

① 委員会会議の開催

適宜, オンラインもしくは対面で実施する。

② 活動内容

ホームページの更新, メールマガジンの配信, ニュースレターの発行 Vol.63 発行 (7月ごろ) Vol.64 発行 (11~12月頃)

6) 学術・研究推進 (学術・研究推進委員会)

① 委員会の開催: 年4回およびメール会議を行う。

② 第16回 (2024年度) 日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行う。

③ 第15回 (2025年度) 日本小児看護学会研究助成の公募を行い, 申請の中から2件まで選考する。また, 第16回 (2026年度) 日本小児看護学会研究助成の広報を行う。

④ 第9回 (2024年度) 川出富貴子国際発表助成の公募を行い, 申請の中から4件選考する。また, 第10回 (2025年度) 川出富貴子国際発表助成の広報を行う。

⑤ 第1回 (2024年度) 大学院生に対する研究助成の公募を行い, 申請の中から博士前期課程2件, 博士後期課程2件を選考する。また, 第2回 (2025年度) 大学院生に対する研究助成の広報並びに公募を行う。

⑥ 第34回学術集会の企画, 準備, 運営の補助を行う。また, 第35回学術集会の企画, 準備の補助を行う。

7) 小児看護に関する教育 (教育委員会)

① 委員会の開催: 年6回程度開催予定 (基本的にオンライン開催)。スキルアップ研修で委員が集合する機会を利用し, 対面での委員会の開催も行う。

② 小児看護スキルアップ研修の運営

「小児看護基盤コース」「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」e-learningの運営。申し込み等に関してはMAFに委託, 参加者集計について簡便化を図る。

「医療依存度の高い子どもと家族の看護コース」集合研修の実施 (年2回)

第34回学術集会でのパネル展示を実施する。スキルアップ研修に関する広報は, 学会ウェブサイト上で展開, 開催決定後の速やかな更新を目指す。また, e-learningの施設申込が見込まれる病院や施設を選定し, フライヤーを送付する。e-learning講義内容に

ついて, 受講者への質問紙調査を実施し, 実態把握と更新作業の必要性について検討する。

③ 若手教員への支援

第34回学術集会にてテーマセッションを開催予定。

④ 日本小児神経学会主催「第21回医療的ケア研修セミナー」共催

8) 小児看護に関する倫理検討 (倫理委員会)

① 委員会の開催: 年8回程度 (1回/1~2か月) 開催予定 (対面1回, 他オンライン会議)

② 委員会活動および歴代委員会作成の指針の活用に向けての活動

- 第34回学術集会での委員会のミッションや活動の報告, 指針の紹介等のパネル掲示。また, 委員会企画のテーマセッションおよび研修会にて, 指針の活用の紹介と活用方法のプレゼンテーションを実施。

③ 小児看護における現場での倫理的課題解決に向けた活動

- 第34回学術集会テーマセッションの実施, 倫理トピックス, 書籍・サイトの紹介

④ こどもの権利を守る臨床実践についての実態を把握し, 課題の明確化

- テーマ (仮) 病気や障がいをもち入院・入所している子どもたちの生活, 守られていますか? ~こどもの権利を守る臨床実践に関する実態調査~
- 目的: 病気や障がいをもつこどもの権利を守るという観点から, 病院や施設に入院・入所している子どもたちの生活はどの程度守られているのかの実態を明らかにする。

⑤ 日本臓器移植関連学会協議会への委員会としての参加 (依頼時)

9) 小児看護政策に関する検討 (小児看護政策委員会)

① 小児看護に関する政策提言に向けて

- 成育基本計画および診療報酬改定により規定された小児特区について, 臨床現場での状況や管理的な困難・工夫についての情報収集
- 小児看護政策セミナーの企画検討

② 小児看護領域における高度実践看護 (APN) の役割の明確化に向けて

- 第34回学術集会テーマセッション開催, 2024EAFONSにて演題発表 (ポスター) の委員会パネルによる共有, 学会誌投稿

- ③ 健やか親子 21 (第 2 次) 推進協議会等での参加団体としての活動
- ④ 日本医療事故調査支援センターへの協力
- ⑤ その他小児看護政策に関する活動
- 10) 小児看護関連診療報酬検討 (診療報酬検討委員会)
 - ① 令和 6 年度診療報酬改定内容について理解を深め、臨床現場への周知に努め、実態の評価などに取り組む。
 - ② 令和 8 年度診療報酬改定要望書案にむけて、各関連学会とも協力し情報収集に努め、作成作業の準備を行う。
 - ③ 診療報酬に関連した研究活動「小児慢性特定疾病患者に対する外来に関連した診療報酬へのニーズ」について取り組み、エビデンスをもった診療報酬改定要望に取り組む。
 - ④ 診療報酬について、第 34 回学術集会テーマセッションの実施
 - ⑤ 看護系学会等社会保険連合(看保連)、三保連(外科系学会社会保険連合、内科系学会社会保険委員会連合、看護系学会等社会保険連合)等の診療報酬の検討会に参加し、また介護報酬や診療報酬以外の予算措置についても情報を収集し、広い視野で診療報酬のあり方について、検討する。
 - ⑥ 診療報酬等に関連する活動として、各種関連団体等の依頼があった場合は、積極的に対応する。
- 11) 国際交流 (国際交流委員会)
 - ① 小児看護関連国際カンファレンスの紹介
 - ② 第 34 回学術集会委員会広報パネル展示
 - ③ 第 34 回学術集会テーマセッション開催
 - ④ 「国際学会デビューまでの道のり：発表しよう！そのための準備とは？ドキドキ体験談とコツ」
 - ⑤ 2024 年度 研修会開催 11 月 4 日 (月・祝日) 13:00~14:30
 - ⑥ テーマ:「外国にルーツをもつ子どもと家族への看護について考えよう」
 - ⑦ Asia Pacific Paediatric Nursing Association (APPNA) 理事会参加
 - ⑧ 世界看護科学学会 (WANS) 加盟学会・団体代表者会議参加
 - ⑨ 8th Asia Pacific Congress of Paediatric Nursing (APCPN)へのスピーカー推薦・参加
 - ⑩ Cebu, Philippines on 16,17 November 2024.
- 12) 災害対策 (災害対策委員会)
 - ① 委員会の開催:対面 1 回/年, オンライン 5 回/年程度開催
 - ② 災害発生時および復興期の支援のあり方の検討
 - ③ 第 34 回学術集会テーマセッションの実施
 - ④ テーマ:「令和 6 年能登半島地震における災害対策委員会の活動報告と意見の共有—学会が担うべき災害発生直後・急性期・中長期の対応—」
 - ⑤ 教育推進活動:日本小児救急医学会共催「小児周産期医療従事者向け災害医療研修会」(開催地:名古屋, 開催日:10 月 5 日)の開催
 - ⑥ 学会ホームページにおける災害関連情報の点検, 更新
 - ⑦ 災害支援に関する情報や委員会活動についての広報
 - ⑧ 災害支援事業助成の実施
 - ⑨ 関連団体との連携 四者協小児周産期災害対策委員会, 小児周産期リエゾン協議会 等
- 13) 選挙 (選挙管理委員会)

2024 年度の評議員, 理事・監事選挙の実施のための計画確定とそれに伴う厳正な実施を行う。
- 14) その他

理事数名, 評議員数名で今後の日本小児看護学会の将来構想に関するワーキンググループを立ち上げ予定である。

質疑応答

質問なし。

(20 分休憩)

事業計画についての承認

2024 年度事業計画案に対し、決議権のある評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

4. 2024 年度予算案

1) 収入の部

- ① 会費 22,540,000 円を計上した。
- ② 雑収入 400,000 円を計上した。
- ③ 学術集会収入 28,086,000 円を計上した。
- ④ 研修会参加費 3,000,000 円を計上した。

当期収入合計は 54,026,700 円を見込み、前期繰越額を含め収入合計は 169,021,962 円を見込んでいる。

2) 支出の部

- ① 会員集会費 520,400 円を計上した
- ② 会議費 3,487,000 円を計上した。

- ③ 事業費 47,223,240 円を計上した。
 - ④ 事務費 9,391,340 円を計上した。
 - ⑤ 予備費 500,000 円を計上した。
- 以上、当期支出合計は 61,121,980 円である。

質疑応答

質問なし。

2024 年度予算案の承認

2024 年度予算案に対し、決議権のある評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

5. 2026 年度 第 36 回学術集会会長の承認

第 36 回学術集会会長として、山下早苗氏（静岡県立大学看護学部教授）が理事会から推薦された。

質疑応答

質問なし。

第 36 回学術集会会長の承認

第 36 回学術集会会長の承認に対し決議権のある評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

6. 2025 年度 第 35 回学術集会会長挨拶

第 35 回学術集会会長 東北大学 教授 塩飽仁氏からご挨拶があった。メインテーマ選定の背景、会場の紹介、仙台市の紹介などがあり、協力および参加を呼び掛けた。

会長：塩飽仁（東北大学大学院医学系研究科 教授）

日時：2025 年 7 月 5 日（土）、6 日（日）

会場：仙台市中小企業活性化センター、TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口

テーマ：“未来創世” —子どもと家族の今と未来を支える看護の探求—

【2024 年度 第 34 回学術集会会長挨拶】

第 34 回学術集会会長 関西医科大学 教授 加藤令子氏よりご挨拶があった。学術集会初となる大阪開催、会場の紹介、懇親会の紹介などがあり、協力および参加を呼び掛けた。

【閉会】

これをもって、すべての議題を終了し、一般社団法人日本小児看護学会 2024 年度社員総会を 15 時に閉会した。

配布資料

一般社団法人日本小児看護学会 2024 年度社員総会（評議員会）資料

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め、署名押印する。

2024 年 7 月 29 日

議長

野間 千香穂



議事録署名人

長田 暁子



議事録署名人

染谷 奈々子

